



学校だより



12月号

令和7年11月28日
江戸川区立瑞江小学校

内弁慶 外弁慶

副校長 小出 紀幸

11月17日（月）から19日（水）の3日間、6年生は日光移動教室に行ってきました。昨年度の冬のウインタースクールで初めての宿泊学習を経験してから約9か月、両方の宿泊行事を引率した校長先生によれば、6年生たちは時刻を意識して行動できたことが大きな成長だったとのことでした。

日光移動教室のような行事は「遠足・集団宿泊的行事」と呼ばれ、小学校学習指導要領では以下のように内容が示されています。

自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、人間関係などの集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。

小学校学習指導要領（平成29年告示） 第6章の第2

今年の5年生も2月にウインタースクールに出かけます。私的な場である家庭を離れ、公の場で2泊3日を過ごす初めての機会となる子が多いと思います。「内弁慶」という言葉があります。家で家族といるときは威張っていたり伸び伸びと気ままに過ごしていたりするけれども、外で家族以外の様々な人と接する時にはおとなしく静かな人のことを指す言葉です。内弁慶なお子さんの場合、宿泊行事は大丈夫かなと心配する保護者の方もいることでしょう。

一方で、最近の学校では「外弁慶」とも感じられる子どもの姿を多く見かけるようになりました。学校で普段はかなり自由気ままに過ごしている子が、家の人が見に来ると人が変わったようにきちんとやっている、そのような様子です。

令和の現代は、良い意味でも悪い意味でも学校の先生は子どもにとって厳しく怖い存在ではなくなったでしょう。友達の両親や地域の人から叱られることもあまりないでしょう。公の場（外）で子どもに怖いものはないとも考えられます。もしかしたら、核家族化して外部からの目が届きにくい家庭（内）での親子関係の方が、緊張して慎重に過ごす場面となっているのかも知れません。

「内弁慶」にも「外弁慶」にも偏ることなく、公私どんな場面でも子どもが変わらず生き生きと過ごせるよう、学校では「人間関係などの集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むこと」を重視して宿泊行事などを行います。ご家庭でも、子どもたちが家族や先生以外の多様な大人との関わりを通して、様々な人間関係や公の場での振る舞い方を学び、時にはきちんと叱ってもらえる機会を設けてもらえれば幸いです。